

# まる べに

**Marubeni**

## CONTENTS

- |                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| 02 社長メッセージ        | 11 丸紅クリッピング                        |
| 2012年度第2四半期決算について | 12 特集 丸紅ビジネスの最新動向と事業戦略<br>[穀物ビジネス] |
| 07 連結決算情報         | 16 世界の食卓                           |
| 08 セグメント情報        | 18 IRインフォメーション                     |
| 09 CSR情報          | 20 丸紅ウェブサイトIRコンテンツ紹介・株主メモ          |
| 10 丸紅グループの動向      |                                    |

〔注意事項〕本資料の将来の見通しに係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

株主レポート

**No.113**

2012 WINTER



## 丸紅TOPIC

### 世界各地で展開、クリーンエネルギー事業

再生可能エネルギーは、もはや“火力や原子力の補完的な電源”という位置づけではなく、社会に不可欠な選択肢のひとつとなっています。丸紅は、総合商社として培ってきた事業開発力や運営ノウハウ、ファイナンス組成能力、地域営業力などを組み合わせ、世界各国で、風力・水力・地熱・太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギー事業に取り組んでいます。

## 2012年度第2四半期決算について

株主の皆様には、変わらぬご高配を賜り深謝申し上げます。当社は11月1日に、2012年度第2四半期決算を発表いたしました。この機会に、2012年度第2四半期決算の概要につき、ご報告申し上げます。

### 1 2012年度第2四半期決算の概要

#### ◆連結純利益 1,053 億円 ―順調に推移―

当社の2012年度第2四半期決算につき、まず収益面からご説明します。

第2四半期累計期間の連結純利益は前年同期比+23億円増益の1,053億円となりました。期初に設定した業績予想2,000億円に対する進捗率は53%となります。

当期の経営環境を概観しますと、欧州債務問題が熾り続ける中、中国の経済成長率も鈍化傾向となる

等、世界経済の先行き不透明感がさらに高まってきているといえます。商品市況についても、原油は前年同期とほぼ変わらない水準で推移しましたが、銅や石炭の価格は大きく下落しています。また、為替も円高となっており、経営環境という観点では厳しさが増えていると認識していますが、このような環境下、前年同期比で増益を確保しており、順調に進捗していると評価しています。

今第2四半期累計期間の連結純利益における資源分野の比率は44%と、当社の特徴である資源分野

と非資源分野の良好なバランスを維持しています。

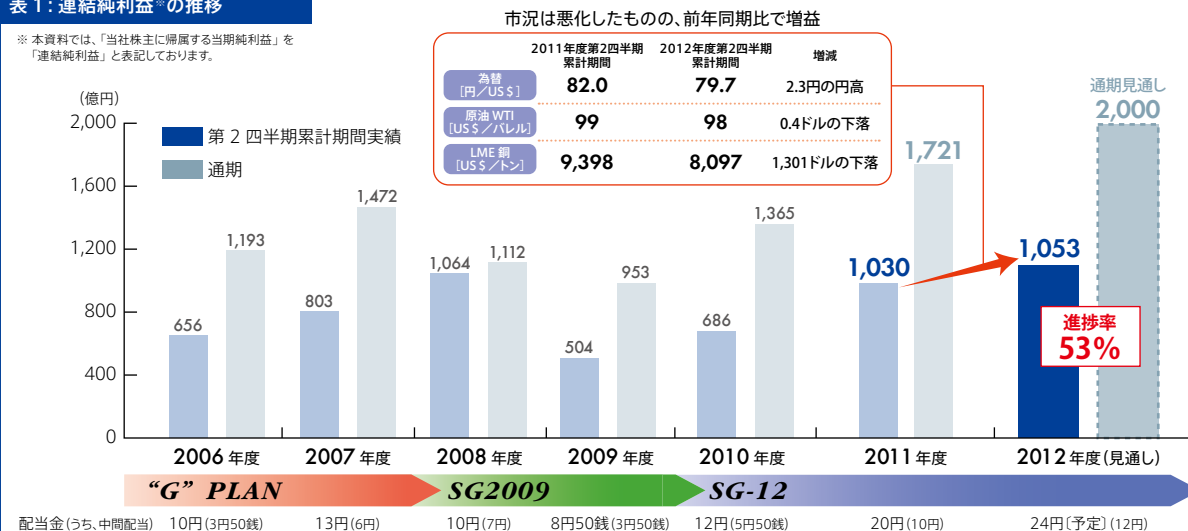
まず、資源分野の状況ですが、チリのエスペランサ銅鉱山が今年度より通年でフル稼働となっており、これに伴う銅生産量の増加により、先述の市況下落によるマイナスの影響をカバーし、資源分野全体で増益となりました。

また、非資源分野についても、米国における農業・肥料販売事業の好調に加え、昨年度投資を実施したLNG船事業や米国での中古車ファイナンス事業、今年度より参画したアジアでの再保険事業といった新規案件により、着実に収益基盤の厚みが増したことで、食料や紙パルプといった減益セグメントのマイナスの影響をカバーしています。

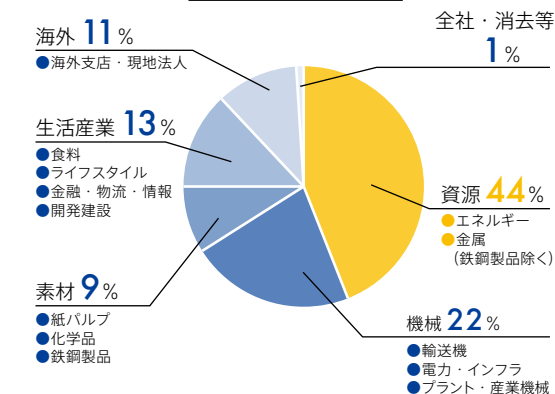
このように、商品市況の下落等により減益となったビジネスを、新規案件の収益貢献等により他のビジネスがカバーしながら、全体として前年同期比増益

表1：連結純利益の推移

※ 本資料では、「当社株主に帰属する当期純利益」を「連結純利益」と表記しております。



2012年度第2四半期累計期間  
連結純利益分野別内訳



President & CEO Teruo Asada  
代表取締役社長 朝田照男



を実現しており、幅広い分野で強みを発揮している  
当社の総合力がお分かりいただけるかと思います。

◆連結ネット D/E レシオ 2.01 倍

次に、財務面についてご報告します。  
2012 年 9 月末連結純資産は 9,667 億円となりました。株価下落等によるマイナスの影響はあったものの、順調な利益の積み上げにより、前年度末比 +509 億円の増加となりました。  
一方、連結ネット有利子負債は、重点分野への新規投融資の実行等により、1 兆 9,441 億円と前年度末比 +1,884 億円増加した結果、連結ネット D/E レシオは 2.01 倍 (+0.09 ポイント) と前年度末比若干上昇しています。

当社は今年度末の連結ネット D/E レシオ目標を「1.8 倍程度」と設定しています。今年度後半も新規投融資による収益基盤の拡充を進めつつ、財務規律を維持し、今年度末の連結ネット D/E レシオ目標を達成する方針に変わりはありません。

2 新規投融資の進捗状況

次に、当社の持続的成長を担う新規投融資の進捗状況につきご説明します。  
今年度は第 2 四半期までに約 1,500 億円の新規投融資を実施し、今年が最終年度となる中期経営計画『SG-12』の期間合計は約 5,700 億円となりました。第 2 四半期までに実施した主な案件をご紹介します

ますと、「資源」分野においては、チリのアントコヤ銅鉱山開発事業への参画、カナダのアロエッテ アルミ製錬所の権益追加取得、米国シェール・オイル・ガス事業イーグルフォードの開発資金拠出、さらには当社のポートフォリオに欠けていた鉄鉱石権益の取得となる豪州ロイヒル鉄鉱山開発プロジェクトへの拠出等で計約 800 億円、「インフラ」分野では、(株)産

業革新機構との共同案件となる英国洋上風力発電設備の据付会社シージャックス社の買収を中心に計約 250 億円、「環境・生活・その他」では、シンガポールの再保険会社グループ ACR 社への出資や、米国アラスカ州における Red Salmon 工場買収による天然鮭鱒事業強化等で計約 450 億円を実施しました。



アロエッテ アルミ製錬所 (カナダ) ロイヒル鉄鉱山開発プロジェクト調印式 (豪州)

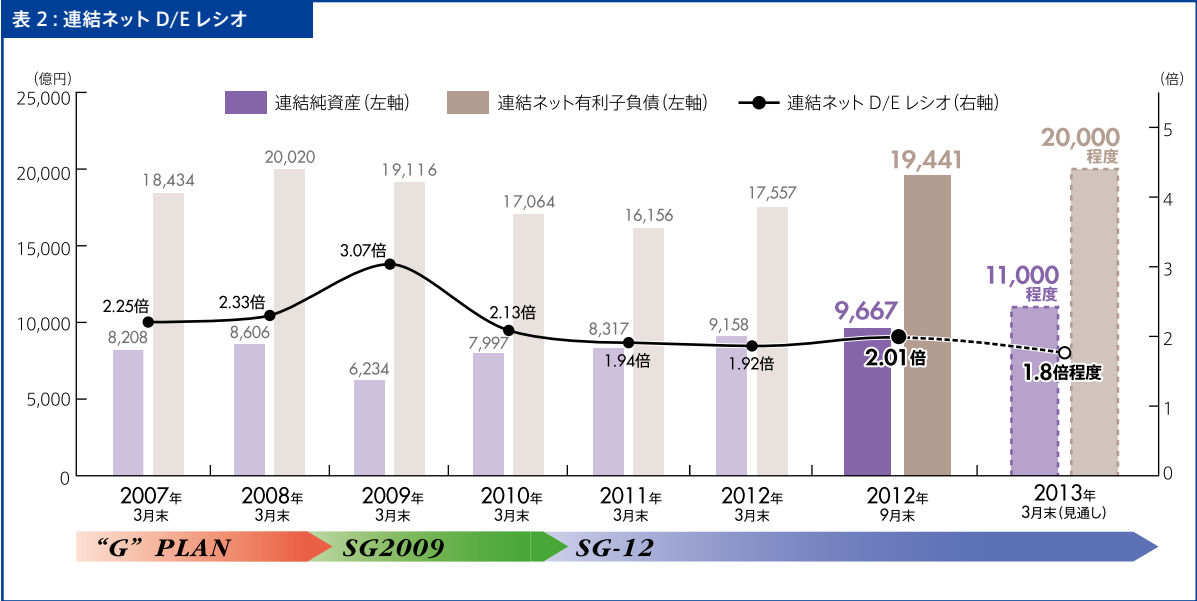


シージャックス社保有船 Red Salmon 工場 (米国アラスカ州)

表 3：新規投融資実績

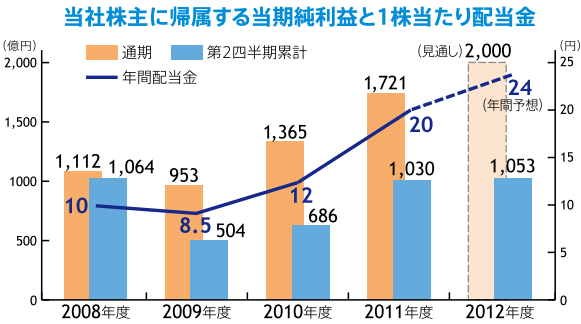
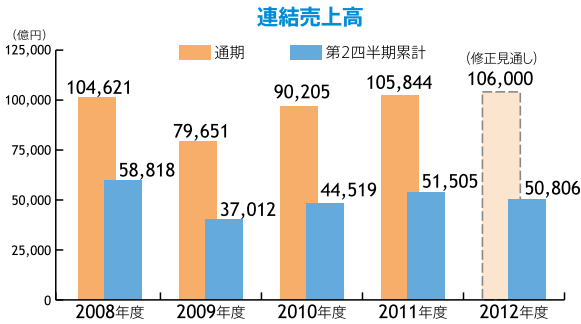
|                 | 2010 年度通期 | 2011 年度通期 | 2012 年度<br>第 2 四半期累計期間 | 『SG-12』期間合計 | 2012 年度第 2 四半期累計期間 主要案件                                                                                                                                   |
|-----------------|-----------|-----------|------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 資源              | 約300億円    | 約900億円    | 約800億円                 | 約2,000億円    | Antucoya 銅鉱山 (チリ)<br>Roy Hill 鉄鉱山 (豪)<br>アロエッテ アルミ製錬所 (加)<br>Eagle Ford シェール・オイル・ガス (米) 等                                                                 |
| インフラ            | 約800億円    | 約400億円    | 約250億円                 | 約1,450億円    | Seajacks 洋上風力据付事業 (英) 等                                                                                                                                   |
| 環境<br>生活<br>その他 | 約500億円    | 約1,300億円  | 約450億円                 | 約2,250億円    | ACR 再保険事業 (シンガポール)<br>ジャパン・リート・アドバイザーズ (日)<br>FPSO 備船事業 (ブラジル)<br>Magellan Aviation 航空機用部品事業 (米)<br>アラスカ Red Salmon 工場 (米)<br>Welman Europe 水産物卸売会社 (蘭) 等 |
| 新規投融資<br>合計     | 約1,600億円  | 約2,600億円  | 約1,500億円               | 約5,700億円    |                                                                                                                                                           |

資源／非資源の両分野において着実に収益基盤を拡充





2013 年 3 月期 (2012 年度) 第 2 四半期の連結業績  
(2012 年 4 月 1 日～2012 年 9 月 30 日)



1. 2013年3月期第2四半期の連結業績 (2012年4月1日～2012年9月30日)  
(百万円未満四捨五入) (%表示は対前年同四半期増減率)

| (1)連結経営成績(累計)        | 2013年3月期第2四半期     | 2012年3月期第2四半期     |
|----------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高                  | 5,080,646 (△1.4%) | 5,150,455 (15.7%) |
| 営業利益                 | 71,564 (△25.5%)   | 96,121 (44.7%)    |
| 税引前四半期純利益            | 138,834 (△8.9%)   | 152,457 (59.6%)   |
| 当社株主に帰属する四半期純利益      | 105,301 (2.2%)    | 103,030 (50.1%)   |
| 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益 | 60.65円            | 59.34円            |

(注) 1. 売上高および営業利益については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。  
2. 売上高は、当社および連結子会社が契約当事者または代理人として行った取引額の合計額となっております。  
3. 営業利益は、連結損益計算書における「売上総利益」、「販売費及び一般管理費」および「貸倒引当金繰入額」の合計として算出しております。  
4. 四半期包括利益 2013 年 3 月期第 2 四半期 75,569 百万円 (5.3%)2012 年 3 月期第 2 四半期 71,780 百万円 (-%)

| (2)連結財政状態 | 2013年3月期第2四半期 | 2012年3月期  |
|-----------|---------------|-----------|
| 総資産       | 5,379,620     | 5,129,887 |
| 資本合計(純資産) | 966,719       | 915,770   |
| 株主資本      | 906,575       | 852,172   |
| 株主資本比率    | 16.9%         | 16.6%     |

(注) 上記の株主資本は、連結貸借対照表上の当社株主資本であり、株主資本比率は当社株主資本により算出しております。

2. 配当の状況

|                | 2013年3月期(予想) | 2013年3月期 | 2012年3月期 |
|----------------|--------------|----------|----------|
| 1株当たり年間配当金 [円] |              |          |          |
| 第 1 四半期末       | -            | -        | -        |
| 第 2 四半期末       | 12.00        | 10.00    | 10.00    |
| 第 3 四半期末       | -            | -        | -        |
| 期末             | 12.00        | 10.00    | 10.00    |
| 合計             | 24.00        | 20.00    | 20.00    |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2013年3月期の連結業績予想 (2012年4月1日～2013年3月31日)  
(%表示は対前期増減率)

|                     | 通期                |
|---------------------|-------------------|
| 売上高                 | 10,600,000 (0.1%) |
| 営業利益                | 155,000 (△1.5%)   |
| 税引前当期純利益            | 275,000 (5.4%)    |
| 当社株主に帰属する当期純利益      | 200,000 (16.2%)   |
| 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益 | 115.19円           |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

3 今期業績見通しについて

最後に、2012 年度の業績予想について申し上げます。

◆今期目標\*の達成へ

\* (連結純利益 2,000 億円、今期末連結ネット D/E レシオ 1.8 倍程度)

冒頭でご説明しました通り、今第 2 四半期累計期間の連結純利益は 1,053 億円、通期見通しである 2,000 億円に対し、進捗率は 53% と順調に推移しています。

今回、期初の業績予想 2,000 億円は変更しておりませんが、第 2 四半期までの業況と、商品市況を含む足元の経営環境を織り込んでいること、また、資源関連事業を含む海外事業会社の多くは決算期が 12 月であり、既に 9 月末をもって第 3 四半期を終了していることから、通期見通し 2,000 億円の達成には自信を深めているところです。

また、今年度末連結ネット D/E レシオの目標である 1.8 倍程度についても、先程ご説明しました大型案件であるガビロン社の買収実行を織り込んだうえで、達成する予定です。

◆『SG-12』の完遂、そしてさらなる飛躍へ

以上が 2012 年度第 2 四半期決算の概要です。

現中期経営計画『SG-12』は 2010 年度からスタートし、2 年半が経過しましたが、この間、各年度の定量目標を着実にクリアしつつ、力強く進捗しており、確かな手応えを感じています。

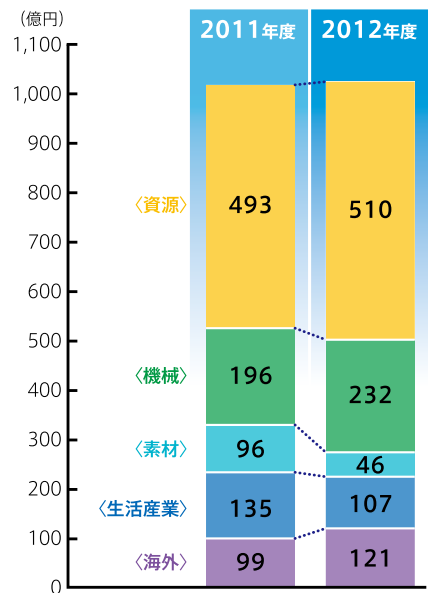
『SG-12』もあと半年を残すのみとなり、その完遂がいよいよ視野に入ってきました。当社として未知の領域であった連結純利益 2,000 億円の達成をはじめ、『SG-12』を完遂することで、2013 年度以降、さらに飛躍する丸紅の姿をお見せできると確信しています。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を頂戴いたしたく、宜しく願い申し上げます。

今年度後半には、主に北米において穀物・肥料・エネルギーのトレーディング事業を展開する Gavilon Holdings, LLC (ガビロン社) の持分取得の実行 (今年 5 月発表) を予定しています。同社は穀物事業では全米 3 位の集荷網を有し、肥料事業では米国最大規模のホールセールネットワーク、エネルギー事業では約 8 百万バレルの原油在庫施設等の物流ネットワークを構築しています。

今回の買収により、たとえば当社が強みを有する穀物事業の取扱量は、2012 年度目標の 25 百万トンにガビロン社の取扱量 30 百万トン超が加わることで、55 百万トンを超える水準に達します。これにより当社の穀物世界貿易における存在感がさらに高まるとともに、今後の日本への穀物安定供給にも寄与できるものと考えています。

(第2四半期累計期間)



| セグメント     | 2011年度 | 2012年度 |
|-----------|--------|--------|
| 資源        | 493    | 510    |
| エネルギー     | 255    | 217    |
| 金属        | 238    | 293    |
| 機械        | 196    | 232    |
| 輸送機       | 57     | 92     |
| 電力・インフラ   | 121    | 122    |
| プラント・産業機械 | 18     | 18     |
| 素材        | 96     | 46     |
| 紙パルプ      | 45     | 1      |
| 化学品       | 51     | 44     |
| 生活産業      | 135    | 107    |
| 食料        | 88     | 27     |
| ライフスタイル   | 25     | 30     |
| 金融・物流・情報  | 23     | 50     |
| 海外        | 99     | 121    |
| 海外支店・現地法人 | 99     | 121    |

|         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 全社及び消去等 | 11      | 38      |
| 連結合計    | 1,030億円 | 1,053億円 |

## 主な増減要因

■エネルギー  
石油・ガス開発分野の減益等により、売上総利益、四半期純利益ともに減益。

■金属  
軽金属、鉄鋼原料の価格下落等により、売上総利益は減益となったものの、有価証券損益の増益等により四半期純利益は増益。

■輸送機  
建設機械及び農業機械関連事業の新規連結の影響による売上総利益の増益に加え、持分法による投資損益の増益により四半期純利益は増益。

■電力・インフラ  
海外発電事業の関連会社化の影響で売上総利益は減益となったものの、法人税負担の改善等により、四半期純利益は増益。

■プラント・産業機械  
繊維機械及び産業機械関連事業の取扱高減少等で売上総利益は減益となったものの、有価証券損益の増益等があったことから、四半期純利益は横這い。

■紙パルプ  
チップ関連収益の悪化、ムシパルプ事業の採算悪化等による売上総利益の減益に加え、有価証券損益、持分法による投資損益の悪化により四半期純利益は減益。

■化学品  
電子材料の取扱減少等による売上総利益の減益に加え、持分法による投資損益の減益により四半期純利益は減益。

■食料  
食糧関連事業の減益等の影響で、売上総利益、四半期純利益ともに減益。

■ライフスタイル  
ユニフォーム、タイヤの取扱量増加による売上総利益の増益に加え、前年同期の有価証券評価損の影響により、四半期純利益は増益。

■金融・物流・情報  
金融事業のファンド報酬増等による売上総利益の増益に加え、持分法による投資損益の改善により、四半期純利益は増益。

■海外支店・現地法人  
米国会社の増益を主因として売上総利益、四半期純利益ともに増益。

・P3の「連結純利益分野別内訳」における「資源」比率は、上記「金属」から「鉄鋼製品」ビジネスの利益を除き算出しております。  
・上記の説明文中における「四半期純利益」は「当社株主に帰属する四半期純利益」であります。  
・2011年度より、「開発建設」は「全社及び消去等」に編入しております。

## 〈カタール大学への寄付に関する覚書締結〉

丸紅は、カタール国国立大学であるカタール大学に対して、今後5年間で総額6百万ドルの寄付を行うことで同意、2012年4月、同大学にて覚書を締結しました。

総額6百万ドルは、カタール大学図書館への日本関連書籍の寄贈、日本・東アジアに関する研究講座や両国間学生文化交流プログラムの提供など、日本文化の理解促進に役立てられます。

丸紅は同国において、LNG（液化天然ガス）事業、発電事業などの事業案件、並びに原油・石油製品・化学品関連商品などのコモディ



覚書締結式にて  
(シェイハ アブドゥラ アル・ミスナッド  
カタール大学学長〔中央〕、朝田照男  
丸紅社長〔左から2番目〕)



## 〈東日本大震災復興助成〉

丸紅グループの被災地支援

社会福祉法人 丸紅基金（理事長 丸紅社長・朝田照男）は、今年度で設立38年目を迎え、この間、全国の社会福祉活動に従事する施設・団体に対し、毎年1億円の助成を継続してきました。

これとは別枠で、東日本大震災により設備・機器・車両・家屋等が損傷し、活動に支障をきたしている社会福祉法人、NPO法人等の団体を対象に、平成23年度および24年度の2年間において、「東日本大震災復興助成」を実施しています。

今般、平成24年度助成として、73団体に対し、総額2億9,357万円の資金助成を行うことを決定しました。これにより、平成23年度分と合わせて合計126団体、総額5億円の助成を実施することになります。

ティートレードを手掛けています。今後もこれらのビジネス活動を通じて、両国間の互恵的経済発展の一翼を担っていくとともに、丸紅が全世界的に積極的に取り組んでいるCSR活動の一環である教育・文化面においても、両国間のさらなる交流に貢献していきます。

## 〈東京本社ビルでLEDを導入〉

丸紅は、東京本社ビルの電力使用量のおよそ25%を占める照明器具にLEDを採用しました。

ビル全体で共用部分2,256本、オフィス部分8,486本の蛍光灯や水銀灯など従来の照明器具をLEDに変更し、照明器具による電力使用量を従来比55%削減しました。夏には、空調負荷を軽減する遮熱型ブラインドの設置や屋上の遮熱処理なども行い、オフィスの省エネに努めています。



## 「東日本大震災復興支援 丸紅グループボランティアプロジェクト」について

丸紅グループは2011年度に続き、東日本大震災の被災地でのボランティア活動を継続的に実施しています。

本年6月から7月にかけては、グループ社員から募ったボランティア合計59名と2012年度総合職新入社員113名が数回に分かれてボランティア活動を行いました。また、11月から12月にかけても同様のボランティア活動を実施しています。活動場所は、当社グループが昨年より継続して支援にあたっている宮城県七ヶ浜町で、同町ボランティアセンターと連携し、夏は海岸再生、秋は農地再生のための支援活動を実施しています。

一日も早い復興の一助となるよう、当社は、今後も継続して支援活動に取り組んでいきます。

## 丸紅グループの2012年度上半期ニュースリリースを一部ご紹介します。

## 2012.4.1 - 2012.9.30

- 4.24** 再保険事業への参画について[詳細 P10]
- 5.2** カタール大学への寄付に関する覚書締結について (関連記事 P9)
- 5.2** 中国における自動車リースビジネス参画について
- 5.15** フィリピン・マニラ首都圏都市鉄道 (MRT 7 号線) 建設契約受注の件[詳細 P11]
- 5.25** 英国シージャックス社の買収ならびにファイナンス組成完了の件[詳細 P10]
- 5.29** 米国 Gavilon Holdings, LLC の持分の取得 (子会社化) に関するお知らせ (関連記事 P12)
- 6.14** 航空機用部品事業への参画について
- 6.15** 東日本大震災復興助成金 (平成 24 年度) 助成先決定について (関連記事 P9)
- 6.25** オランダ水産物卸売会社を買収する件
- 7.10** ミャンマーで既設複合火力発電所向けガスタービン・オーバーホール案件受注
- 7.12** 欧州最大手の機能化学品ディストリビューター アゼリス社との戦略的業務提携について
- 8.16** インドネシア・二輪車販売金融事業への参画について
- 9.4** 中国・太鋼ステンレスよりロックウール製造設備を受注
- 9.26** 丸紅が持続可能性指標 DJSI World の対象銘柄に継続選定されました (関連記事 P19)

## 2012.4.24 リリース

## 再保険事業への参画について

丸紅は、シンガポールの再保険会社グループ ACR Capital Holdings Pte. Ltd. の約 22 % の株式を取得しました。

丸紅はこの出資参画により、当社の再保険仲介事業の拡大を図るとともに、アジア地域に再保険引受キャパシティを提供することで、本邦企業をはじめ同地域に進出する企業に不測の事態に備えた保険カバーを提供し、企業の営業活動のサポートと同地域の経済発展に寄与していきます。



## 2012.5.25 リリース

## 英国シージャックス社の買収ならびにファイナンス組成完了の件

丸紅は、(株)産業革新機構と共同で、英国洋上風力据付大手 Seajacks International (シージャックス) 社の買収、並びに買収に関わるファイナンスの組成を完了しました。

本買収は日系企業として初となる洋上風力発電所据付事業への本格参入となり、当社発電事業の経験・ノウハウを生かし、シージャックス社を同業界におけるトッププレーヤーとして成長させていきます。

買収においては本邦銀行を中心に買収ファイナンスの組成を実施、銀行団との協調のもと積極的に新規船舶設備等への投資を行い、拡大する欧州洋上風力発電におけるリーディングカンパニーとしての地位を確固たるものとするともに、将来は北米、日本、アジア地域等における事業展開も目指します。



シージャックス社保有船

## 2012.5.15 リリース



MRT2号線で以前、丸紅が納入した車両

## フィリピン・マニラ首都圏都市鉄道 (MRT 7号線) 建設契約受注の件

丸紅とフィリピン大手建設会社 D.M. Consunji Inc. (DMCI) 社の 2 社 (以下、コンソーシアム) は、マニラ首都圏北部にて高架式鉄道システム一式 (MRT7号線)、およびバスターミナル建設事業を受注しました。契約金額は米ドル換算約 10 億ドル (約 800 億円)、工期は着工より 42 ヶ月、全線開通は 2016 年 6 月頃を予定しています。

## ●当社の狙い

MRT7号線は、既存線である 1 号線と 3 号線が乗り入れる北端駅より更に北部に位置するサンホセデルモンテ駅 (ブラカン州) までの 14 駅、23 km を結ぶものです。開業後は北部に建設が予定されている住宅地・商業施設からマニラ首都圏へのアクセス利便性が格段に高まることになります。

丸紅はコンソーシアムリーダーとして、同プロジェクトのマネジメントおよび鉄道システム一式 (車両 108 両、信号、通信、自動改札、変配電、車両保守設備) の設計・製造・据付・試運転を担当、DMCI 社は駅舎 (14 駅)、高架 (一部地下)、車両基地、バスターミナルの建設および軌道工事を担当します。

## ●展望

フィリピンにおいて、丸紅は運輸通信省傘下のフィリピン国鉄の軌道改修案件、軽量交通公社 (Light Rail Transit Authority) が運営するマニラ LRT1号線増強案件、マニラ MRT2号線建設案件 (2004 年開業) など、鉄道システムの一部および一括での建設・納入実績を有しています。丸紅は、今後もフィリピンのみならず、新興国を中心とする海外市場において日本の鉄道インフラシステム輸出に貢献していきます。

※著作権の関係により、ネットワーク上への記事原文、掲載画像の掲載は行いません。

2012 年 5 月 16 日 日本経済新聞朝刊  
11 面掲載記事より作成



調印式の様子



# グローバルプレーヤーとしての圧倒的地位確立 にむけて

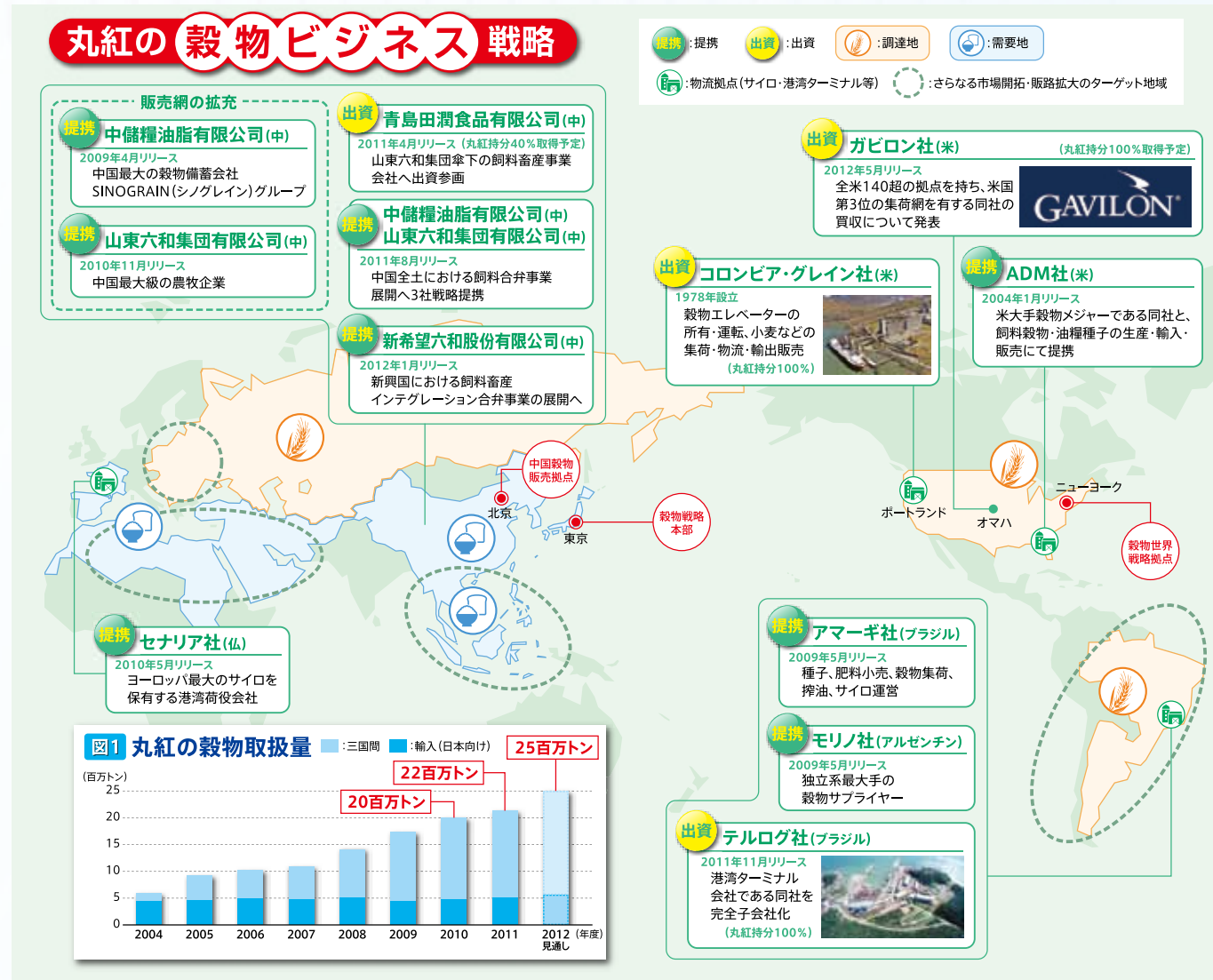


執行役員 食糧部門長 若林 哲

## 丸紅史上最大の投資案件「ガビロン社」買収

2012年5月、丸紅は、主に北米で穀物・肥料・エネルギーのトレーディング事業を展開する **Gavilon Holdings, LLC (ガビロン) 社** の持分すべてを取得するための持分譲渡契約締結を発表しました。買収総額は36億ドル(約2,800億円)におよび、当社史上最大の投資額となります。

ガビロン社の穀物事業は、全米に140超の穀物集荷関連拠点による戦略的集荷網を展開し、全米第3位の穀物集荷能力を有しています。このガビロン社買収により、当社の穀物取扱量は、25百万トン(2012年度見通し)から55百万トンを超えるまでに大幅に増加する見通しで、丸紅は世界の穀物市場において大きく存在感を高めることになります。



## 日本国内への輸入から三国間取引へ ～有カトレーダーとの提携～

丸紅は穀物ビジネスにおいて、過去40年以上に亘り日本国内向けの供給網を構築し、穀物取扱で高いシェアを維持してきました。

1970年代に米国ポートランドの穀物エレベーターを買収し、**コロンビア・グレイン(CGI) 社**を設立。これを調達地拡大の足がかりとするとともに、日本国内では穀物サイロや配合飼料工場など、輸入・生産拠点を着々と増やし、国内穀物ビジネスにおいてその存在感を高めてきました。

当初は海外の穀物を日本に単純輸入することに専念していましたが、2003年以降はその方針を転換。販路を世界へと拡大すべく、韓国や台湾、中国を中心に本格的に三国間貿易を開始しました。同時に、国内の商社で初めて長期契約で船を借り上げる「タイムチャーター」による傭船形式を開始。戦略を大きく転換させる過程で、丸紅の穀物ビジネス拡大のカギとなったのは、有カトレーディング企業との提携でした。

**調達サイドでは**2004年、穀物メジャーの米国**ADM社**と飼料穀物・油糧種子の生産・輸入・販売について戦略的提携を実施。

南米においては、世界有数の穀倉地帯であるブラジルを需要の膨らむ中国向け穀物の調達地と定め、安定供給の実現に向けて、同国における大手穀物集荷・搾油事業者である**AMAGGI(アマーギ) 社**と2009年に包括提携を締結。さらに同年、アルゼンチン最大の独立系穀物サプライヤー**Molino Cañuelas(モリノ・カニユエラス) 社**とも包括提携し、食料資源生産国での調達力を戦略的に強化しました。

欧州地域では 2010 年、ヨーロッパ最大のサイロ保有会社**セナリア社**（仏）と提携。欧州内陸からの穀物の安定的確保と、北アフリカ・中東地域へ向けた欧州産穀物の販売拡大が狙いです。

**販売サイドでは** 2009 年、中国最大級の穀物備蓄会社 SINOGRAIN（シノグレイン）グループの**中儲糧油脂有限公司**、2010 年に中国最大級の農牧企業**山東六和集团有限公司**と相次いで提携。それらパートナーの中国国内における穀物の流通網を利用し、旺盛な中国需要を取り込む販売網の拡充が目的です。

需要地と調達地の双方を押さえることで、当社は穀物ビジネスにおける競争力の強化を図ってきました。この戦略により特に中国向けの当社の穀物取扱量は、中国の大豆輸入量の約 2 割を占めるまでに拡大しました。

有力トレーディング企業との提携の狙いは、国外への販路拡大による丸紅の穀物取扱量の増大でした。穀物ビジネスにおいては、どれだけ多くの量を取り扱い、どれだけ競争力のある価格で取引ができるかが非常に重要です。大きな量を扱えば買い付け力も強まり、必然的に競争力のある価格で顧客に提供することが可能となります。

### さらに踏み込んだビジネス展開へ ～真のグローバルプレーヤーとして～

ここまでの段階で、2004 年度に数百万トンだった当社の穀物取扱量は、2010 年度には年間 20 百万トンに達するまでに成長を遂げました。（▶▶ P12 図1 参照）

しかし今後、穀物ビジネス成長の牽引役を担ってきた中国市場はやがて成熟期を迎え、穀物ビジネス自体の成長の速度は緩やかになると考えられています。一方、新しい需要地として、中東・北アフリカなどの新興国市場が伸びていくことが予想されます。丸紅は持続的成長を実現するために、「提携」をキーとした成長から、世界の

食糧の安定供給に資する「グローバルプレーヤー」として自ら主体的に世界の穀物トレードの流れを作り出す、一歩進んだ積極的戦略へと踏み出しました。

**販売サイドでは** 2011 年 4 月、提携関係にある山東六和集团有限公司傘下の飼料畜産事業会社**青島田潤食品有限公司**へ 40% 出資参画することを決定。飼料・種鶏・ブロイラー・鶏肉・加熱加工品生産を一貫して行うインテグレーションの形成、それによる中国内需の取り込みを目指しています。さらに、本件への出資参画を皮切りに、山東六和集団と中国最大級の飼料工場建設などの共同事業を推進するとともに、丸紅の穀物グローバル戦略の一環として、競争力のある輸入穀物・飼料原料の同集団への販売にも注力していきます。

2012 年 1 月には、**新希望六和股份有限公司**（山東六和集団が四川新希望農業と統合して誕生）との合弁事業として、アフリカ・中近東・東欧および南米など中国以外の海外新興国において、飼料・畜産インテグレーション事業を展開していくことで同社との戦略的提携に調印しました。今後、これら中国以外の新興諸国においても市場を開拓し、さらに取扱量を 5 百万トン程度積み上げることを目標としています。

**調達サイドでは**、穀物生産の拡大余地が大きいブラジルにおいて、2005 年から出資していた港湾ターミナル会社**Terlogs（テルログ）社**を 100% 子会社化し、ブラジル産穀物の調達力強化を図りました。



テルログ社の穀物ターミナル（ブラジル）



ガビロン社が保有する穀物倉庫（米国ネブラスカ州）

そして、丸紅はさらなる事業の強化・拡大を目指し、2012 年 5 月、冒頭でご紹介した**ガビロン社**買収を決定したのです。

世界最大の穀物生産国である米国において、ガビロン社が保有する巨大な集荷・販売ネットワークを、当社の穀物事業の成長戦略を描く上での戦略的プラットフォームと位置付け、グローバルな穀物トレードの量的拡大を目指します。

### column

### ガビロン社 Gavilon Holdings, LLC

ガビロン社は、売上高 178.5 億ドル、従業員数 1,943 人の米国の巨大トレーディングハウスです。2008 年、米国食品大手 ConAgra 社のトレーディング部門が MBO によってスピンオフして設立されました。2011 年には同業の DeBuce 社を買収し、米国内で穀物メジャーの ADM 社、カーギル社につぐ第 3 位の規模を誇ります。

同社は、穀物事業のほか、肥料事業、エネルギー事業を展開しています。肥料事業では、米国最大規模の肥料ホールセールネットワークを構築し、世界の有力サプライヤーや 1,800 以上の顧客と継続的な取引を行っています。エネルギー事業では、約 8 百万バレルの原油在庫施設をはじめ豊富な物流ネットワークを保有しています。丸紅は、穀物事業以外の他事業においても、このガビロン社買収によって大きなシナジー効果を得ることができると考えています。

ガビロン社の穀物事業は、全米 3 位の穀物保管能力（8.3 百万トン）と 140 超の集荷関連拠点を備えた戦略的集荷網を展開。同社と丸紅の米国での穀物保管能力合計は 9.5 百万トンとなり、カーギル社の 9 百万トンを上回ることになります。また、同社はふすまなどの飼料用副原料で米国で大手プレーヤーの存在です。加えて、豪州、ウクライナ、ブラジルなどの海外でも集荷・販売事業を展開しています。

丸紅の穀物事業における同社買収の意義は、第一に世界の穀物貿易の中心である北米市場でのプラットフォームの獲得、第二に穀物取扱量の 55 百万トン超への拡大、さらに購買力・価格競争力・

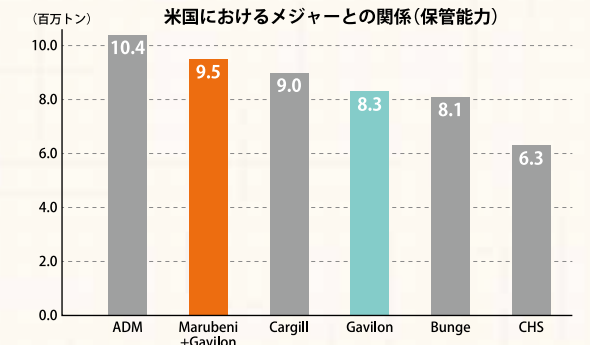
拡大を続ける世界の穀物需要に対して、供給面で米国が果たす役割は大きく、今後も穀物トレードにおける米国のプレゼンスは揺るぎないものと考えます。丸紅はガビロン社買収により、産地から消費地に至る一貫したシステムを構築し、真の「グローバルプレーヤー」として、強靱で競争力のある穀物流通ネットワークを完成させていきます。

運搬手段を手配する上での交渉力の向上にあります。この結果、日本への穀物の安定供給へのさらなる寄与が可能となります。

ガビロン社買収後は、同社の北米での集荷事業と、丸紅の世界における販売力を組み合わせ、さらに競争力のあるグローバルな穀物調達販売網の構築を目指します。



ガビロン社の穀物貯蔵施設





# 世界の食卓

中国(北京)料理

丸紅グループ社員が世界各地の料理とそのお国柄などを紹介するコーナー。



総料理長の杉田さん(写真中央)と

丸紅 金属総括部 企画管理課  
吉田真純・暁莉・麗海・太陽 ご家族  
2005年6月から語学研修生として北京に赴任。  
2006年6月から2007年5月、研修生として  
丸紅北京会社で金属資源の輸出のサポート業務  
などに携わる。



## “豚肉の黒酢炒め”

箸で切れるほどやわらかい肉に絡む、香ばしい黒酢ソースが絶品です。

Recipe!!

材料(4人前)

- 豚バラ肉ブロック …… 400g
- 赤ピーマン …… 1/4 個
- パプリカ …… 1/4 個
- ししとう …… 4 個
- 【茹で】 塩 …… 小さじ 1/2
- コショウ …… 小さじ 1
- 【焼き】 大豆油<sup>※1</sup> …… 大さじ 2
- 【蒸し】 醤油 …… 大さじ 1
- 鶏ガラスープ<sup>※2</sup> …… カップ 1
- 【野菜】 鶏ガラスープ …… 大さじ 2
- 塩 …… 小さじ 1/2
- 【揚げ】 片栗粉 …… 大さじ 3
- 【ごま油】 …… 大さじ 2

※ 1 サラダ油でもかまいません。豚肉や野菜を揚げる油の分量は除きます。  
※ 2 お湯 230cc に鶏ガラスープの素 小さじ 2 を混ぜたものでかまいません。  
※ 3 必要な場合は加えてください。

【水溶き片栗粉】<sup>※3</sup>  
片栗粉 …… 小さじ 2  
水 …… 小さじ 2

【黒酢ソース】  
黒酢 …… 大さじ 3  
砂糖 …… 大さじ 4  
醤油 …… 大さじ 1 と 1/2  
A ケチャップ …… 大さじ 1  
オレンジジュース …… 大さじ 1  
水 …… カップ 1/2

作り方

※ご家庭での作りやすさを考慮し、取材でご協力いただいたお店のレシピとは一部変更した作り方もご紹介します。



塩・コショウをした豚肉を熱湯でさっと茹で、お湯を切る。中華鍋に大豆油(大さじ 2)を熱し、軽く焼き色をつけた後、醤油、鶏ガラスープを入れ約 5 分煮る。スープごとボウルに移し、約 8 時間せいろで蒸す。

【Point】せいろで蒸すかわりに、圧力鍋(約 20 分加圧)または真空調理器(80℃で約 15 分)で煮る。鍋の場合は、弱火で約 2 時間煮て火から下ろし蓋をしたまま 1 時間置く(これを 2、3 回繰り返す)。これらの方法でもやわらかく仕上がります。

赤ピーマンとパプリカは 1cm 幅に切り、ししとうは楊子で 1 か所穴を開けてヘタを取る。大豆油で素揚げし、鶏ガラスープ(大さじ 2)と塩(小さじ 1/2)を入れた鍋でさっと煮る。



蒸した豚肉を 4 等分に切り、表面に片栗粉をまぶして、180℃に熱した大豆油で、表面がカリッとなるまで揚げ、油を切る。

熱した中華鍋に、ごま油を入れ、A を入れて沸騰したら B を入れ、絡ませながら強火で炒める。皿に盛り、C を添える。

【Point】とろみが足りない時は、水溶き片栗粉を入れて、さらに火を通します。

本音をぶつけて育む絆が、ビジネスの可能性を広げる。

中華人民共和国の首都・北京は、歴代王朝の都として栄えた街。故宮をはじめとする歴史遺産や、昔ながらの庶民の暮らしが偲ばれる胡同(旧城内の細い路地)が点在する一方、大通りでは車の大渋滞が途切れることのない大都市です。

入社以来、いつか仕事で役立てたいと、自ら中国語をコツコツと勉強していた吉田さんが、研修生として念願の北京に赴任したのは 2005 年 6 月。まずは 1 年間、現地でみっちり本場の中国語を学びました。「中国人は聞き取れなかったり話がわからないとすぐに『哎?!(えっ?)』と大声で聞き返してくるので、買い物やタクシーなどの日常生活でも会話力を鍛えられました」と吉田さん。

2 年目には、丸紅北京会社で石炭や製鋼原料を日本に輸出するためのサポート業務に携わりました。中国人は、大らかなところが良さですが、期日や約束を守る意識が日本人と比べて希薄なこともあり、都合の悪いことを話してくれなかったり、ごまかされたりと、意思の疎通に苦労することもあったそうです。

「社内外を問わず信頼関係を築くには、時には夕食を共にしたり杯を交わすといった、プライベートでのコミュニケーションも大切です。そうした付き合いを通して、本音で話せる信頼関係ができていくのを感じました」

ランチタイムも交流を深める大事な機会。「内モンゴル

や山東省などの鉱山や工場に出張した際には、土地の食材をふんだんに使った料理を円卓に並べて歓待してくれました。昼間からアルコール度数 50 度もある『白酒』をふるまわれることも珍しくありません」

そんな中国式のおもてなしを、吉田さん自身が行うことも。「会食のメニューを選ぶ際、食材の種類や調理法が重ならないように、バランスよくたっぴりと、前菜から副菜、メインまでの流れを作り、ゲストに喜んでいただけるよう配慮します」 ビジネスの相手に対する感謝や好意を最大限に表した円卓を囲み、腹を割って互いの理解を深めることが不可欠だと実感したそうです。

『豚肉の黒酢炒め』は、スペアリブを使う北京の『黒醋猪排<sup>ペイジツ チュパイ</sup>』とよく似たレシピ。北京出身の暁莉さんにとっても懐かしの味です。「中国の中でも北京人は、江戸っ子のように感情表現がストレート。親しくなるとお節介なほどにお世話焼きな気質ですね」と暁莉さん。

「北京では、本音をぶつけ合って初めて、絆を育むことができる学びました。中国は世界経済において、ますますその存在感を強めていくでしょう。グローバルな舞台で、中国語を活かしてさらに大きな金属資源ビジネスに挑戦していきたいと思っています」



ご夫婦で訪れた雲南省にて

中国と丸紅

中国は約 13 億もの人口を抱え、2010 年には日本を抜き世界第 2 位の経済大国へと成長しました。当社は 1979 年に中国へ進出して以降、現在までに 13 都市に 16 の拠点を設け、幅広い分野でのビジネスに取り組んでいます。近年は特に食糧、自動車、住宅、金融など、より拡大する中国の消費市場に向けたビジネスに注力しています。



取材協力店

天厨菜館 銀座店

東京都中央区銀座 5-7-19  
銀座フォリービル 6・7F  
TEL 03-3574-8471

【交通】

銀座線・日比谷線・丸ノ内線  
銀座駅 A1 出口徒歩 1 分

【営業】 ※無休

ランチ 11:30 ~ 15:00

ディナー 平日 17:30 ~ 22:30 日祝 17:30 ~ 21:30





## 会社概要 2012年9月30日現在

|         |                                              |
|---------|----------------------------------------------|
| 創 業     | 1858年5月                                      |
| 設 立     | 1949年12月1日                                   |
| 資本金（単体） | 262,685,964,870円                             |
| 従業員の状況  | 従業員数： 4,198名<br>平均年齢： 41.6歳<br>平均勤続年数： 16.6年 |

・上記人員には、国内出向者 614 名、海外店勤務者・海外出向者・海外研修生 833 名が含まれております。また、上記 4,198 名のほかに、海外現地法人の現地社員 1,472 名、海外支店・出張所の現地社員が 370 名おります。

## 当社ネットワーク 2012年10月1日現在

|           |                                                              |
|-----------|--------------------------------------------------------------|
| 国 内       |                                                              |
| 本社        | 東京都千代田区大手町一丁目 4 番 2 号                                        |
| 支社・支店・出張所 | 北海道支社、東北支社、名古屋支社、大阪支社、九州支社等 9 カ所                             |
| 海 外       |                                                              |
| 支店・出張所    | モスクワ支店、イスタンブール支店、ヨハネスブルグ支店、シンガポール支店、クアラルンプール支店等 55 カ所        |
| 現地法人      | 丸紅米国会社、丸紅欧州会社、丸紅アセアン会社、丸紅中国会社等 33 の現地法人 およびこれらの支店・出張所等 32 カ所 |

## 海外ネットワーク (67 カ国 120 カ所／2012年10月1日現在)



## 役員 2012年9月30日現在

### 取締役および監査役

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 取締役会長       | 勝俣宣夫                         |
| 取締役社長*      | 朝田照男                         |
| 取締役副社長執行役員* | 関山 護、太田道彦、國分文也               |
| 取締役専務執行役員*  | 山添 茂、秋吉 満                    |
| 取締役常務執行役員*  | 野村 豊、岡田大介、鳥居敬三、<br>栗山章司、松村之彦 |
| 取締役         | 小倉利之、石川重明                    |
| 監査役         | 安江英行、崎島隆文、<br>工藤博司、北畑隆生、黒田則正 |

### 執行役員

|        |                                                                                                                             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 常務執行役員 | 川合紳二、鹿間千尋、榎 正博、津田慎悟、<br>田中一紹、岩佐 薫、岩下直也                                                                                      |
| 執行役員   | 生田章一、生野 裕、葛目 薫、内山元雄、<br>南 晃、矢部勝久、家永 豊、甘舛保之、<br>柿木真澄、寺川 彰、水本圭昭、若林 哲、<br>小林武雄、石附武積、田島 真、<br>熊木 毅、郡司和朗、河村 肇、藤川和則、<br>矢部延弘、田邊治道 |

- ・\*印の各氏は、代表取締役であり、かつ執行役員を兼務しております。
- ・取締役小倉利之および取締役石川重明は、社外取締役であります。
- ・監査役工藤博司、監査役北畑隆生および監査役黒田則正は、社外監査役であります。
- ・当社は業務運営の一層の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は 39 名で構成されております。

## IR ニュースメールを配信しております

決算情報はもちろん、最新のビジネスの動きを伝えるニュースリリースなど、当社の情報をタイムリーにお届けします。パソコンのメールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料で登録いただけます。是非ご利用ください。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

<http://www.marubeni.co.jp/ir/mailnews.html>

## 株式の状況 2012年9月30日現在

### 発行済株式の総数

1,737,940,900 株

### 株主数

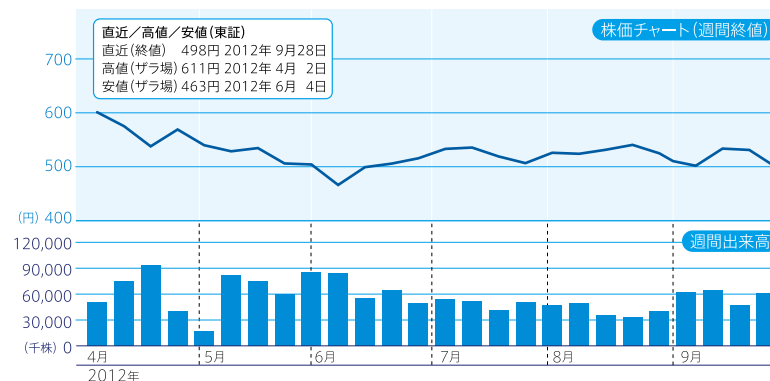
140,684 名

## 大株主

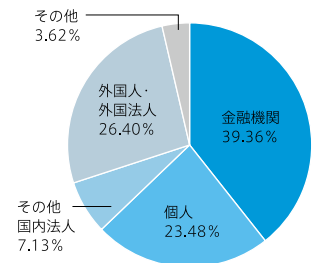
| 株主名                                      | 当社への出資状況<br>持株数 (千株) | 議決権比率 (%) |
|------------------------------------------|----------------------|-----------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)               | 128,226              | 7.40      |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)                 | 87,883               | 5.07      |
| 株式会社損害保険ジャパン                             | 56,110               | 3.24      |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 9)             | 46,129               | 2.66      |
| 明治安田生命保険相互会社                             | 41,818               | 2.41      |
| SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS | 39,409               | 2.27      |
| ジェービー モルガン チェース バンク 380055               | 39,177               | 2.26      |
| 東京海上日動火災保険株式会社                           | 34,902               | 2.01      |
| 株式会社みずほコーポレート銀行                          | 30,000               | 1.73      |
| 日本生命保険相互会社                               | 26,000               | 1.50      |

・持株数は千株未満を切り捨て、議決権比率は小数点 3 位以下を切り捨てております。

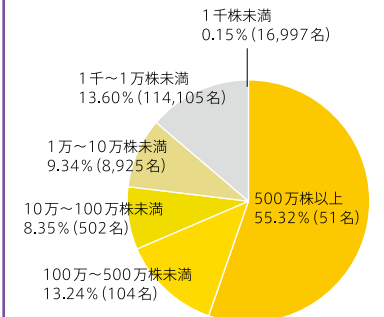
## 株価／出来高の推移 2012年4月1日～2012年9月30日



## 所有者別分布状況



## 所有株数別分布状況



円グラフの数値は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



SAM Sector Leader  
産業別セクターにおける最高評価企業



Dow Jones Sustainability  
World Index (DJSI World)



SAM Gold Class  
総合評価による格付け最高ランク



FTSE4Good Global Index

丸紅は、世界的な CSR 調査・格付機関の SAM 社から「持続可能性に優れた企業」として認定されており、2012 年 1 月、4 年連続で「SAM Sector Leader」に、3 年連続で「SAM Gold Class」に選出されました。また、2012 年 9 月、世界的な SRI インデックスである DJSI World、FTSE 4 Good Global Index の組み入れ銘柄企業に継続して選定されています。

※SAM社: 本社スイス所在の世界的なCSR調査・格付会社

※SRIインデックス: 企業の財務面だけではなく、社会的責任(CSR)を投資決定の重要な判断要素とする社会的責任投資の指標



## 丸紅ウェブサイト

# IRコンテンツのご紹介

## ダウンロード

最新のIR資料をご覧ください。

### ●最新決算情報

### ●アニュアルレポート

PDF または e-Book でご覧いただけます。

### ●CSRレポート

最新 IR 資料一括ダウンロードもできます。

## コンテンツ

### ●IRニュースメール

最新の IR 情報をタイムリーにお知らせするサービスです。

### ●IRトピックス

丸紅の事業における強みを紹介しています。

その他、投資家の皆様にご活用いただきたい情報を掲載しています。是非ご覧ください。

アクセスして是非ご覧ください。

<http://www.marubeni.co.jp/ir>

丸紅 IR

検索



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日  
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日  
 株主名簿管理人及び  
 特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社  
 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部  
 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

単元株式数 1,000株  
 上場取引所 東京・大阪・名古屋  
 公告方法 電子公告

(なお、当社の電子公告は、当社インターネットホームページの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)

<http://www.marubeni.co.jp/ir/houteikoukoku.html>

丸紅株式会社 証券コード：8002 インターネットホームページアドレス <http://www.marubeni.co.jp>

## 株式事務に関するご案内

### ◆未払配当金のお支払い

みずほ信託銀行・みずほ銀行の本店および全国各支店にてお支払いいたします。

※なお、みずほインベスターズ証券の本店および全国各支店においても、取り次ぎをいたします。

### ◆配当金の支払明細の発行

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

### ◆住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、配当金受取方法のご指定、確定申告、相続に伴うお手続き等

【証券会社に口座をお持ちの株主様】口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

【証券会社に口座をお持ちでない株主様（特別口座に記録されている株主様）】みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

※確定申告の際には、株式数比例配分方式以外の配当金受取方式を選択された株主様については、同封しております配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。

**お問い合わせ先** 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324

株主レポート まるべに No.113（年2回発行） 2012年11月30日発行 発行人／矢部延弘  
 発行／丸紅株式会社 財務部 〒100-8088 東京都千代田区大手町1-4-2 TEL 03-3282-2418



環境保全のため環境に配慮した  
 植物油インキで印刷しています。